

平成 29 年度 統計委員会 議事概要

日時:平成 30 年 2 月 21 日(水) 9:50～11:00

場所:兵庫県民会館 鶴の間

開会

- ・ 委員 5 名全員の出席により、統計委員会規則第 6 条第 2 項に規定する過半数の出席を満たしているため、委員会が成立していることを報告。
- ・ 稲田委員を本委員会の委員長とすることで各委員了承。
- ・ 稲田委員長が大井委員を委員長代理に指名。大井委員了承。

議題 1 県基幹統計調査の指定及び匿名データの作成等について

(事務局)

- ・ 資料 1 に基づき、県基幹統計調査の指定及び匿名データの作成について、現在のところ該当がないことについて説明。(事務局)

<質疑応答>

(委員長)

- ・ 兵庫県商品流通調査は5年に1回なのか？

(事務局)

- ・ 産業連関表が5年に1回作成のため、5年に1回となっている。

議題 2 ミクロデータの利用・普及活動について

- ・ 資料 2 に基づき説明。(神戸大学大学院経済学研究科 中村准教授)

<質疑応答>

(事務局)

- ・ リモートアクセス型オンサイトでは基本的に総務省統計局のデータを使っているのか？

(説明者)

- ・ 総務省のものを使っている。リモートによる他省庁のデータの提供は検討中と聞いている。

(委員長)

- ・ データ管理室でのオンサイト利用はリモートを使っているのか？

(説明者)

- ・ サーバーに格納したデータをデータ管理室のセキュアな環境で利用している。したがってリモートではない。

(委員長)

- ・ オンサイト利用の実績の件数は、学生か民間か、その内訳は？

(説明者)

- ・ 学生と教員である。

(委員)

- ・ 匿名データの利用推進のために stata(統計分析ソフトウェア)のプログラムを作成し、提供

していることは非常に良い取り組みだと思うが、そのプログラムは事務局に依頼すれば提供してもらえるのか？

(説明者)

- ・ 神戸大学(KUMiC)を通じて匿名データを申請した利用者へのサービスとしてプログラムを提供している。

(委員)

・ 神戸大学のKUMiCでは兵庫県が実施する統計調査の調査票情報の利用に関する連携を進めていることが非常に良い取り組みであると思われるが、実績としてはどうか。

(説明者)

- ・ 兵庫県と実験的に行ったもの以外は、利用実績はない。

(委員)

- ・ KUMiCでの活動をとおして、兵庫県の統計調査の調査票情報の利用者と兵庫県との間で、利用推進をはかるためにはどういう項目が必要かフィードバックする関係が望ましいと思うので、いっそうの利用推進をはかってもらいたい。

(説明者)

- ・ 県のデータを受入れてから時間がたっているので、今後、利用が増えるかどうかは分からない。新しいデータがあればニーズがあるかもしれない。

(事務局)

- ・ 兵庫県ではユーザーから人口移動分析を求められている。KUMiCは分析手法、能力等を持っているので、共同で分析をお願いしたい。企画ができれば相談させていただきたい。

(委員)

- ・ これまでの調査票情報の利用では、利用目的で公益性が担保されるものでないとデータへのアクセスができなかったが、現在、試行的に実施されているリモートアクセス型では、公益性の担保がなされていない状態であっても、データ上のすべての項目にアクセスが可能になるのか。

(説明者)

- ・ 公益性は必要である。ただし、探索的研究がしやすいように統計法を改正する方向で検討されていると聞いている。

(委員長)

- ・ 地方自治体と連携し、政策にも役立ち、政策効果がわかるような先行事例をつくっていただくことによって利用が進むと思う。

議題3 ビッグデータを用いた観光見える化に関する分析事例について

- ・ 資料3に基づき説明。(和歌山大学観光学部 大井教授)

<質疑応答>

(委員長)

- ・ ビッグデータでは旅行者の移動動線はわかるが、どこに泊まったか、どこで何にお金を使ったかというようなことまではわからない。
- ・ 私のところでは、2015年第1四半期から足下までの観光庁のマイクロデータを分析中であるが、そのデータでは訪日外国人の国籍、何を、どこで、いくら買ったか。また、1泊目から5泊目ぐらいまでの宿泊地や行動までわかる。
- ・ 兵庫県では2016年の実績で2015年と比ベインバウンドの消費が減っている。今後訪日外

国人を兵庫県に呼び込むにはどうすればよいかというようなことも重要になると思う。

- ・ ビッグデータとマイクロデータを組み合わせることで何かわかってくるのではないかな。

(事務局)

- ・ ナビタイムのデータは線の情報なので動かないと表示されないが、GPSデータは点の情報なので動かなくても表示される。訪日外国人が、兵庫県にどう移動してきて、何時頃、いくらお金を使っているのかわかれば、観光対策に生かせる。

(説明者)

- ・ ナビタイムからの提供情報は個人が特定できるような利用の仕方は公表不可と言われている。
- ・ GPSデータを地図に落とすところまではできるが、次の展開をどうするか考えているところである。外国人旅行者の消費動向とつきあわせて何かできないか考えている。
- ・ 携帯電話会社からの位置情報があればもっと詳しいGPSのヒートマップができる。ただ、コストパフォーマンスの問題がある。データの使い方をいろいろ示していくことで、行政も研究者ももっと使いやすくなると思う。

(委員長)

- ・ マクロデータとマイクロデータの分析をつなぐと、兵庫県の観光戦略の検討につながるのではないかな。
大井委員の言うように、ビッグデータにマイクロデータをどう組み合わせていくかが今後の課題である。

議題4 その他

- (1)平成 29 年度兵庫県統計教育セミナーについて
 - (2)平成 29 年度兵庫県統計活用セミナーについて
 - (3)平成 29 年度統計活用研修講師の派遣事業について
- ・ 資料4、資料5、資料6に基づき説明。(事務局)

<質疑応答>

(委員長)

- ・ セミナーのアンケート結果をみると、「役に立っている」と回答した参加者が多い。このようなセミナーを開催する地道な努力が大事である。

閉会

(委員長)

- ・ 本日の議論をまとめる。
- ・ マイクロデータの利用・普及活動については、いかに利用につなげていくかが大事である。委員の提案(統計ユーザーとの連携による分析事例の蓄積と提供)を踏まえていくことになると思う。
- ・ ビッグデータは、どう政策にうまくつなげるかを、コストパフォーマンスを考えながら、(統計ユーザー間の)ネットワークを広げつつ、利用して行くことが大切である。